

大木町地域公共交通計画（案）に対するパブリック・コメントの意見について

No.	意見者	ご意見	大木町の考え方	区分
1	個人	2-3 人口推移データが令和元年6月のデータとは、古いのではないかと。変容を予測できるのか。	国立社会保障・人口問題研究所から発表されているデータは令和5年12月の分が最新のものであると確認しています。しかし、校区単位の人口推移についてのデータがまだ公表されていないため、令和元年のデータを使用しています。	原案どおり
2	個人	2-8～11,14,17,19,21,23,25,3-1,2,5,8,10,22 地図であるが、水域ばかりが目立ち、主要な町道がほとんどわからない。町道10号線は、大莞の主要道路であるにも関わらず確認できない。このような地図での現状確認で公共交通計画の効果的な施策の展開推進ができるか。	計画案では解像度が荒いため、道路がわかりにくいものとなっていたのかと思われます。地図を修正いたしました。	一部修正
3	個人	2-20 障がい者福祉施設で、「大木町障がい福祉計画」に記載されていない施設があるがどのようになっているか。	障がい福祉計画の資料では令和5年4月時点の大木町のサービス利用者が利用している障がい者福祉施設が掲載されています。公共交通計画では、利用する・しないに関わらず、施設建物を掲載しているため、違いが出ております。	その他
4	個人	3-17 九州佐賀国際空港リムジンタクシーについては、今も活用できるとは知らなかった。周知は、どうされているのか。	九州佐賀国際空港リムジンタクシーについては、現在も多くの町民の皆さまにご利用いただいております。サービスのご案内は町ホームページで行っております。	その他

5	個人	4-24 タクシーは廃業されたと聞いたが、今後の見通しなど違ってくるのではないか。	本計画の調査後に、1社の事業者が営業されなくなりましたが、大木町を営業区域にしている事業者は4社あり、調査の聞き取り内容は、運転手不足など全国的に共通の課題であるため、見通しとして入れたところで計画しております。	原案どおり
6	個人	8-5 西鉄電車利用者からタクシーの利用が不便と聞く。 地域巡回バス（アクアス巡回バス）のルートの停車場に西鉄電車駅や病院などを検討され早急に実施すべきではないか。今回の計画が検討で終わるのは遅いのではないか。	<p>タクシーについては、駅前の事業者が廃業したため、乗り込みが困難になっているためかと思われます。</p> <p>今は1社が待機しており、大木町を営業区域としているタクシー事業者は4社あるため、電話予約などで活用いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、アクアス巡回バスは介護予防事業に使用しているサービスのため、アクアス以外に行くことができません。そのため、一般の人でも利用できるように検討していきたいと考えております。</p> <p>しかし、アンケート結果では、「定時定路線型の交通」より、「予約運行型の交通」の希望が多くを占めました。</p> <p>今後、どちらの交通が地域によりマッチングした交通として導入できるかの検討はどうしても必要になってきます。そのため、まずは検討していくこととしています。実施主体が決まり、予定より早く実証実験を行えるようになった場合は、協議会において、早期の実施に向けて計画変更を行うこととなります。</p>	原案どおり

7	個人	8-6 5年間もかけてデマンドタクシーの導入検討までとは、遅いのではないか。	この項目では、例として地域の支え合いによるデマンドタクシーや自家用輸送旅客の例をあげています。どちらも地域の話し合いにより導入したサービスとなっています。 アンケート結果にもありましたように、「町民がアイデアを出し合い町民が積極的にかかわる」ことを基本に進めていくことになります。その際、デマンドタクシーがいいのか、巡回バスを活用した方がいいのか、様々なサービスを比較検討しながら決めていくことになるかと考えます。早期に実施するサービスが決定すれば、計画変更を行い、交通サービスを導入することになるかと思えます。	原案どおり
8	個人	6-3、8-6 課題1②移動の助けを必要とする人の移動手段の確保については、ささえ隊での取り組みの経緯を踏まえて導入検討が必要ではないか。 「住み続けたいと思える持続可能な循環のまち」であるためにも5年間のうちに試験的にでも実施まで進めるべきではないか。	ささえ隊での取り組みは、大莞校区で令和3年6月24日からモデル事業として開始されていましたが、ボランティア運転手が集まらないという課題があり、大木町社会福祉協議会が令和5年度から全校区に広げて移動支援を開始しております。	原案どおり
9	個人	3-14 タクシー運行状況 4社が営業区域に大木町を登録していますが、実際に来てくれるのは、1社のタクシーだけです。その他のタクシーは長距離の場合は可、初乗り運賃くらいの距離では対応できないと言われていました。その他のタクシーとは直接意見交換し、例えば高木病院等2,000円位かかる場合は対応可能と言われました。	利用状況に応じた供給バランスの調整や運転士不足への対応が不可避の中で、タクシーやバスの事業者への聞き取り調査でも浮き彫りになったのは、運転手不足の課題でした。いただいたご意見を踏まえて、協議会でも運転手確保にむけて、事業者と協力していきたいと考えております。	その他

10	個人	<p>7-2 将来の地域公共交通体系のイメージ 木佐木校区は、「地域住民の助け合いによる公共交通」の対象になっていません。確かに、鉄道や路線バスがあり、公共交通の空白地域ではありませんが、民生委員として高齢者の相談を受けていると、団塊の世代が免許返納を考え始める5年後位には必要になるのではないかと思います。または、地域巡回バスをきめ細やかに巡回させる等の対策が必要だと思います。（主な公共施設や病院を巡回の対象とする等）</p> <p>移動の自由を確保することは、心身の健康を守ることに繋がり、町民の健康維持のために必要と考えます。</p>	<p>地域による支え合いの公共交通（自家用有償旅客運送など）を導入する場合、公共交通空白地域または、福祉有償運送でなければ導入できないようになっています。</p> <p>しかし、運送の対価を必要としない無料運行であれば、許可などの必要はありませんので、それで実施することもできます。校区ごとにどの交通サービスが最適なのか、話し合い、地域に合った交通サービスを検討していきたいと考えます。</p>	その他
----	----	---	---	-----